

差出人: NewsMail - metaFrontier.jp, LLC <newsmail@metafrontier.jp>
送信日時: 2013年5月7日火曜日 11:18
宛先: info@metafrontier.jp
件名: メタフロンティア ニュースメール Vol.14 (2013/5/7)

各位

いつもお世話になっております。
メタフロンティア合同会社の柴田賀昭です。

弊社が関わる業界団体の活動に関し、ファイルベース関連のトピックやセミナー情報、
その他各種ご案内などを不定期にてお届けいたします。

本メールの転送はご自由です。まわりにご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、
どうぞ遠慮なくご共有ください。

また配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作を
して下さい(宛先: newsmail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入
していただければ自動的に削除されますので、どうぞ遠慮なく。

◆目次

- 柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」
- EBU(European Broadcasting Union) 発
- SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers) 発
- その他
- メタフロンティアからのお知らせ

◆柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」

- 第2回 ” ファイルベースは改宗???”

前回、初めて「コラム」なるものを書かせていただきましたが、意外な方から感想を
頂戴したり、新たに「メルマガ送付希望」メールが寄せられたりなど、幾つか想定外の
嬉しい反応がありました。感想等を寄せて下さった方々、本当にありがとうございます。
これに気を良くして、今回も書かせていただくこととします。

さて、今回は柄もなく、今ホットな話題である「アベノミクス」に絡んだおカネの
話をしましたが、今回は本業に直結したところで、これまで色々と感じてきたことを
綴ってみたいと思います。

柴田がよく受ける質問として、「日本の放送技術はどの程度の最先端を走っているの
ですか?」というのがあります。これは幅広い放送技術のどの部分に着目するかに
よって答えはまちまちでしょう。例えば4Kは兎も角8Kなんて世界中で日本しかやって
いない訳ですから、“高画質化”については、日本の放送技術は“他国の追従を全く寄せ
付けないダントツの地位にある”と言っても過言ではないと思います。

他方でこれを「日本のファイルベース映像制作技術はどういったレベルにあるか。」
という質問に読み替えますと、欧米では既に数年前から、単に「テープレスを実現した」
だけだと話題に上がらなくなったのに対し、日本では未だそれが業界誌や技術報告会
などで大きなテーマとして取り上げられている現状をみても、“遅れている”と言わざる
を得ないでしょう。

ただそれでもって現在主流であるHDの映像制作技術で日本が遅れを取っているかと
言えば、見方を変えれば、少なくとも現時点においては、日本と欧米とは単にこれまで
歩んできた道のりが違っていただけに過ぎない、とも言えるのかも知れません。

すなわち、日本ではHDへの移行は既にほぼ完了していますが、欧米では未だ1080iと720pのどちらが良いかといった議論が散見されます。つまりSDからHDへの道のりを俯瞰した場合、欧米は放送のデジタル化の延長として直ちにファイルベース化に取り組んだのに対し、日本は最初に高画質化(HD化)に取り組むことになった訳で、最初の道のりがほぼ完了した今、それぞれはもう一つの道のりを歩んでいるに過ぎないといった見方もできるかと思えます。

しかし、ここでひとつ気になるのが、ファイルベース化と高画質化(HD化)は、道のりとしては早かれ遅かれ歩むものであったとしても、両者の趣きは大きくかけ離れているのでは、という点であります。

もちろんHD化それ自体にも、例えばカメラのフォーカスや色合わせが難しくなったなど、導入時には様々な課題もありました。しかし日本のHD化は、誤解を恐れず言えば、それまでのSD対応のカムコーダやVTR、スイッチャーといった映像機材をHD対応のそれらに買い替えただけで、映像制作の“考え方”やワークフローなど多くの“方法論”はSDのそれらをそのまま踏襲できた、つまりハードウェアの進歩がもたらした、従来の延長上の進化であったと言えるのではないのでしょうか。

一方、まずファイルベース化に着手した欧米勢には、その辺りの“考え方”や“方法論”の抜本的な変更が求められることとなりました。

まず、今まではビデオテープなる物理的に触れる“モノ”であった映像素材が、概念的なファイルになってしまいました。さらに、これまで“SDI/HD-SDI対応”とひとこと言えば、事実上つながることが保証されていた映像伝送でしたが、“ネットワーク対応”はおろか、“MXF対応”と謳われていたところで、つながる保証は全くなくなってしまいました。

同じ映像制作技術なのにこの違い、あえて例えるならば、昨日までキリスト教の信者として十字架を拝んでいたのに、突然「今日からアラアの神を崇めなさい。」と言われたのと似たようなものかも知れません。

まあそれは極論としても、少なくともそれまで慣れ親しんできた考え方なり、やり方なりといったものに大きな変革を求められた結果、相当の戸惑いがあったことは間違いありません。

例えば、今でこそ業界標準ファイルフォーマットとして広く浸透したMXFですが、その導入時には相当の試行錯誤がありました。例えば、2004年のSMPTE標準化完了を受けてベンダ各社から“MXF対応”製品が続々と出現したものの、ベンダそれぞれが“特徴を出した”MXF対応をおこなった結果、「SMPTE標準である“MXFに対応”しさえすればどの製品でもつながる筈」とのユーザ側の淡い期待は大きく裏切られることに。

ただ、そういった事態を收拾すべく積極的に関与したのもまたユーザあるいはユーザ団体でした。例えばEBUはいわゆる“プラグフェスタ”(機器の相互接続テスト)を度々繰り返してユーザのみならずベンダへもフィードバックしたり、自らMXFチェッカーを開発、提供したりすることで、ユーザを啓蒙すると同時に、ベンダ同士が互いに相互接続性を推進するよう強く働きかけをおこなっていました。

こういった中で見られたのが、ベンダのエンジニアが顔負けの深い技術知識をもったエキスパートがユーザ側にも登場してきたことです、いえ、ファイルベース映像制作システムを自らのビジネスを展開する上での最重要戦略ツールと位置付けている彼らの姿勢からみて、そのような高いスキルを持った人材が偶々社内にはいたのではなく意図的に導入あるいは養成してきたものと思われます。

そして残念ながら当時の(そして現在ですら)IT技術をもってしてもユーザの全ての要求を完全に満足させられるようなソリューションは存在しませんので、技術的に立ち入った議論も含めてユーザとベンダが互いに切磋琢磨していく中で、限られた時間と予算の中でのベストな“妥協点”を見出していくといった方法が奏功してきたように見受けられます。

これに対し、日本のファイルベース化への取り組み姿勢はどのようなものでしょうか？

尤も、本家本元の(エンタープライズ系)情報システム部門の課題を指摘した記事(注)に

よれば、同部門は、「間接部門扱い」、「スキルがない」、「外部 IT ベンダーへの過度な依存」といったことのように、まさにユーザ側の技術担当部署のそれは日本のカルチャーに根付いたものかも知れません。

とは言え、グローバル化がますます進展する今、いつまでも「日本は特別だ！」とお茶を濁す訳にも参りません。特にファイルベース映像制作システムは、一般の情報システムでは決して取り扱うことがないような巨大なサイズの“映像素材ファイル”をごく当たり前のようを使うことが求められます。それ故、一般の情報システムと比べても、より技術的難易度が高い。そしてそのことは、その時々々の先端 IT 技術をいかに使いこなすかについて、ユーザとベンダーがより密接なコミュニケーションを図る必要があることを物語っていると思います。

他方で、MXF が SMPTE 標準規格となってもまもなく 10 年、さすがに“MXF がつなげられない”問題への対応を始めとした多くの課題についてもほぼ洗い出された感があり、特に HD における MXF の使い方については幾つかの有力なパターンに収れんしつつあると柴田は見ています。

そこで“遅れて行く者の特権”として、先駆者の失敗に学びそれを事前回避することにも、もっと注力すべきかも知れません。

尤も、これらはある意味、我々日本人の成功パターンであった「欧米に追い付き追い越せ」の再来と見立てることもできるかも。

ただその第一歩としてはトップを含めたユーザ側の意識改革、つまり「ファイルベース化とは改宗だ！」といったレベルまでの改革意識を明確に持って“覚悟を決めて”取り組むことこそが、その成功に向けた重要な第一歩であると柴田は固く信じます。

ファイルベース化に取り組む全ての方々のご健闘そしてご成功を心より祈願いたします。

(注)

連載 日本の情報システムを取り巻く課題と提言 (by 情報システム学会 伊藤重光氏)

第 1 回 日本の情報システムを取り巻く環境

<http://www.issj.net/mm/mm0505/mm0505-8-8m.html>

なお、これ以降の記事も他山の石として考えさせられるところが多々ありましたので、ご参考までに以下に紹介させていただきます。

第 2 回 産(ユーザー企業)の課題

<http://www.issj.net/mm/mm0506/mm0506-8-9u.html>

第 3 回 産(IT ベンダー企業)の課題

<http://www.issj.net/mm/mm0507/mm0507-8-tp.pdf>

第 4 回 学(教育機関)の課題

<http://www.issj.net/mm/mm0508/mm0508-6-ln.html>

第 5 回 官(官公庁)の課題

<http://www.issj.net/mm/mm0509/mm0509-b-sg.html>

第 6 回 情報システム発展のための情報システム学会への提言

<http://www.issj.net/mm/mm0510/mm0510-8-1d.pdf>

◆EBU(European Broadcasting Union)発

- 6/25(火)-26(水)の日程で Geneva にて開催予定の Network Technology Seminar 2013 が、引き続き参加者を募集中です(早期割引登録の締切は 5/28(火)です)。

http://tech.ebu.ch/events/nts2013?newsletter_may2013

- 先月、SMPTE、VSF と共同での設置が発表された JT-NM(Joint Task Force on Networked Media)が、参加者を募集中です。

http://tech.ebu.ch/news/call-for-participation-in-networked-medi-25apr13?newsletter_may2013

- 6/5(水)-6(木)の日程で Geneva にて開催予定の MDN (Metadata Developer Network)が、引き続き参加者を募集中です。

http://tech.ebu.ch/events/mdn2013?newsletter_may2013

- Video over IP に関する相互接続性のテストが予定され、参加者を募集中です。まずは 5/28(火)-31(金)の日程で London において SMPTE 2022-5/6 に基づく Uncompressed video

over IP のテストが、また 10 月には Geneva において JPEG2000 video over IP のテストの実施が予定されています。

http://tech.ebu.ch/news/ebu-invites-industry-to-key-video-over-i-17apr13?newsletter_may2013

◆SMPTE (Society of Motion Picture and Television Engineers) 発

- SMPTE Monthly Newsletter 2013 年 4 月号が発行されました。

http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001f92fxbmkmiBRBKQfcnvZIN2xkMQL5ucTV8GIhaZMko90lZZ5sRbecmvdK8w1dmLsdsR1mGsUTiZpMwM6X_QEMj5xcS7lZkfwLkIEcIW0dxG30HIoSfF28E2g_w7rn5VcrKvHu-SrLJHKV3mAWk2MbW0ewnvxZzZMsg19g_j17hmPvRwnzn0Q2RSDGD_3lFxSPmqGNmu95gZ03mm22Eix06W4cQxLmhGcNKDrwsPGnvdGuFCbQds9iFs_4eN_lP_NA_rs1JW-tZE9kEzA9qbyuD9yz1rI_e0JBzZ80rdY43fK0_ZMtsPNg%3D%3D

- 2016 年の SMPTE 設立 100 周年を記念して、映画テレビ技術の 2016 年 7 月における様々な統計値を予測するコンテストを開催中です(応募締切: 11/1(金))。

https://www.smpte.org/100-years/?utm_source=SMPTE+MONTHLY+--+April+2013&utm_campaign=Monthly&utm_medium=email

- “SMPTE Standards-based Video over IP using SMPTE 2022”なるタイトルの、SMPTE 標準化活動に関する無料オンラインセミナーが、6/19(水) 2:00(日本時間)から開催されます

http://events.r20.constantcontact.com/register/event?oeidk=a07e7dx9izh53dbd3c5&llr=iwnzoxjab&utm_source=SMPTE+MONTHLY+--+April+2013&utm_campaign=Monthly&utm_medium=email

- 3/4(月)~8(金)にて開催された SMPTE 標準化委員会香港会合の報告が開示されました(私どもの活動も紹介されています。よろしければ“UMID”にて文中検索してみてください)。

https://www.smpte.org/sites/default/files/files/SMPTE%20Standards%20Quarterly%20Report%202013%20March.pdf?utm_source=SMPTE+MONTHLY+--+April+2013&utm_campaign=Monthly&utm_medium=email

- SMPTE Newswatch 2013 年 4 月号が発行されました。

http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001BVV8sZmFHDQ7v-qQCohZCQOGgLiFzJVHwU2WFhCkjjL-dc5yQdGPVUhx6VgUUcqQtF8RuGb0ya-uASDX5CSkRhalvq1t-HIYWwRfYLCoSokX2hg15m0BS6_IaZcteDg0XMwnyriU-nwNzxiPlsG0b19QVxY6ziqGwGLGD6UU8X0_100M8ZddBR2aUDKYCtmfSJKDhtbGwb00SiHsnBeICwjRw4Z8nK-vQy-6jkl9n-f3D1VvTUxGExyRH4ewzUf5rAZBVYdbt3zpwYs9eWqXliZ03fL86UY-vgTKAhABA%3D

◆その他

- 「サイド・バイ・サイド - フィルムからデジタルシネマへ」が 5/13(月) 15:00 から港区西麻布の富士フィルム西麻布ホールにて上映されます。
<http://www.mpte.jp/information/2013/javcom-1305.html>

- マスター素材向けコーデックとしての JPEG2000 の特長を紹介した記事が掲載されました。

http://broadcastengineering.com/post-production/choosing-jpeg-2000-growing-choice-master-file-format?page=1&utm_source=Newswatch+--+April+2013&utm_campaign=Newswatch&utm_medium=email

- Mr. MXF こと Bruce Devlin 氏 (AmberFin CTO) による無料オンラインセミナー

“Bruce's Shorts - Tip of the Week...”(日本語字幕付)が、好評配信中です。
<http://www.amberfin.com/shorts-jp/>

◆メタフロンティアからのお知らせ
(新着情報: <http://metafrontier.jp>)

- 柴田賀昭が SMPTE で議長を務める「UMID 応用プロジェクト」(TC-30MR SG UMID Applications)が提案した新たなプロジェクト(RP 205 改定 AHG)の、TC-30MR による提案レビューが完了しました。現在、5/13(月)までの日程で、Standard Committee による提案レビューが進められています。
https://kws.smpete.org/apps/org/workgroup/portal/project/details.php?project_id=174
- ファイルベースワークフローを導入したものの「こんな筈ではなかった。」とか「何とか使ってはいるものの完全なブラックボックス状態で、万一の時が不安。」などといったことでお困りのユーザ様はいらっしゃいませんか？
特にこれまで親しんできた技術トレンドとは“非連続”な IT ベース技術が業界に急速に広がるにつれ、ユーザ様とベンダ様との会話がうまくかみ合わず、関係を損ねてしまったといったお話もちらほらと伺っております。
ファイルベース技術は今も日々改良が進められているものの、残念ながら現時点においても、(ベンダ様を問わず)ユーザ様のあらゆる要求を完全に満足できるようなソリューションが提供可能な技術レベルには達しておりません。
従ってファイルベースワークフローの導入を本当に成功させるためには、ユーザ様、ベンダ様が互いの深い信頼関係の元、技術とコストの兼ね合いから、その時点での「ベストソリューション」を互いに切磋琢磨しながら探っていくといった姿勢こそが最も大切なことであります。
弊社ではファイルベースに関する豊富な技術知識を元に、ベンダニュートラルな立場から、ユーザ様とベンダ様が相互理解をより深めて「ベストソリューション」を見出すための“技術通訳”といったお手伝いをさせていただきたいと考えております。
つきましては、何かお困りのことがございましたら、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。
- MXF(Material Exchange Format)の出張セミナー、引き続き好評提供中です。
“MXF は初めて”という方々を対象に MXF が絡むビジネス判断をおこなう上で必要とされる MXF 技術の基本知識の習得を目的とした「基礎編」と、これから本格的に SMPTE の MXF 関連規格書を読みこなしていく方々を対象に、その前準備として必要とされる MXF 技術の全体像の把握を目的とした「応用編」をベースに、御社のニーズに応じたかたちにごカスタマイズして提供させていただきます。
その他、ご要望により XML(eXtensible Markup Language)の基本や FIMS 等の技術セミナーにも柔軟に対応させていただきますので、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお問合せ下さい。

今回のご紹介は以上です。
ここまでお読み下さり、ありがとうございました。

本メールは、弊社スタッフがこれまでに名刺交換させていただいた方や、弊社 HP からのお問い合わせの際、アドレスをご登録いただいた方などにお送りしております。

配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作をして下さい(宛先: news@mail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入していただければ自動的に削除されますので、どうぞご遠慮なく。

また本メールを転送などで受取られた方で、今後の受信を希望される場合は、一行目に「配信希望」とご記入の上、お名前、会社名(あるいは所属組織名)を添えて下記宛先にご連絡いただければ、次回から送信させていただきます。

また本メールに関するご意見、ご感想などがございましたら、こちらも下記宛先にお送り下さい
(宛先: request4news@mail@metafrontier.jp)。

編集/発行 : メタフロンティア合同会社 柴田賀昭
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-13-12 アーバンビル 6F
URL: www.metafrontier.jp

Copyright (C) 2012-2013 metaFrontier.jp, LLC. All Rights Reserved
